

基準 6 学習成果

(1) 観点ごとの分析

観点 6-1-①： 各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について、単位修得、進級、卒業（修了）の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業（学位）論文等の内容・水準から判断して、学習成果が上がっているか。

【観点到る状況】

本学では、学士課程に学ぶ学生が卒業までに修得することが望まれる能力を、「佐賀大学 学士力」（資料 5-3-①-A【再掲】）として定め、それに沿って学士課程は、学科・課程毎に学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定めている（参照資料 6-1-①-ア）。また、大学院課程については、研究科の専攻ごとに修了までに修得することが望まれる能力を学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）として定めている（参照資料 6-1-①-イ）。それらの達成状況は、成績評価、単位修得状況、卒業（学位）論文、卒業（修了）状況、資格取得状況、などの指標を基に、観点 8-1-①で後述する各部局及び大学の自己点検・評価体制により検証を行っている。

単位修得率の状況は、学士課程では教養教育科目が 83.3%（平成 22 年度）から 87.6%（平成 26 年度）に、学部専門教育科目は 76.9~97.1%（平成 22 年度）から 80.5~93.8%（平成 26 年度）に、大学院（修士・博士前期）課程では 94.1~100%（平成 24 年度）から 91.1~100%（平成 26 年度）となっており（資料 6-1-①-A）、ほぼ年度に依らず一定の値である。

また、平成 23 年度入学生より、卒業判定において「ラーニング・ポートフォリオ」を用いて、佐賀大学学士力の項目別達成状況を成績評価データに基づいて確認している。平成 23 年度入学生の卒業時における学士力の学科別項目別達成度（資料 6-1-①-B、最低 1.00、最高 4.00）は、いずれの学士力項目においても最低達成度よりも 1.2 から 2.1 ポイント高くなっている。さらに、英語能力の向上を目指し、平成 25 年度入学生より TOEIC-IP テストを義務化して、その成績により習熟度別クラスを編成するなどの対応を行った結果、平成 25 年度入学生の全学平均点が、1 年次前学期の 389.3 点から 2 年次後学期の 403.3 点へ上昇した（参照資料 6-1-①-ウ）。

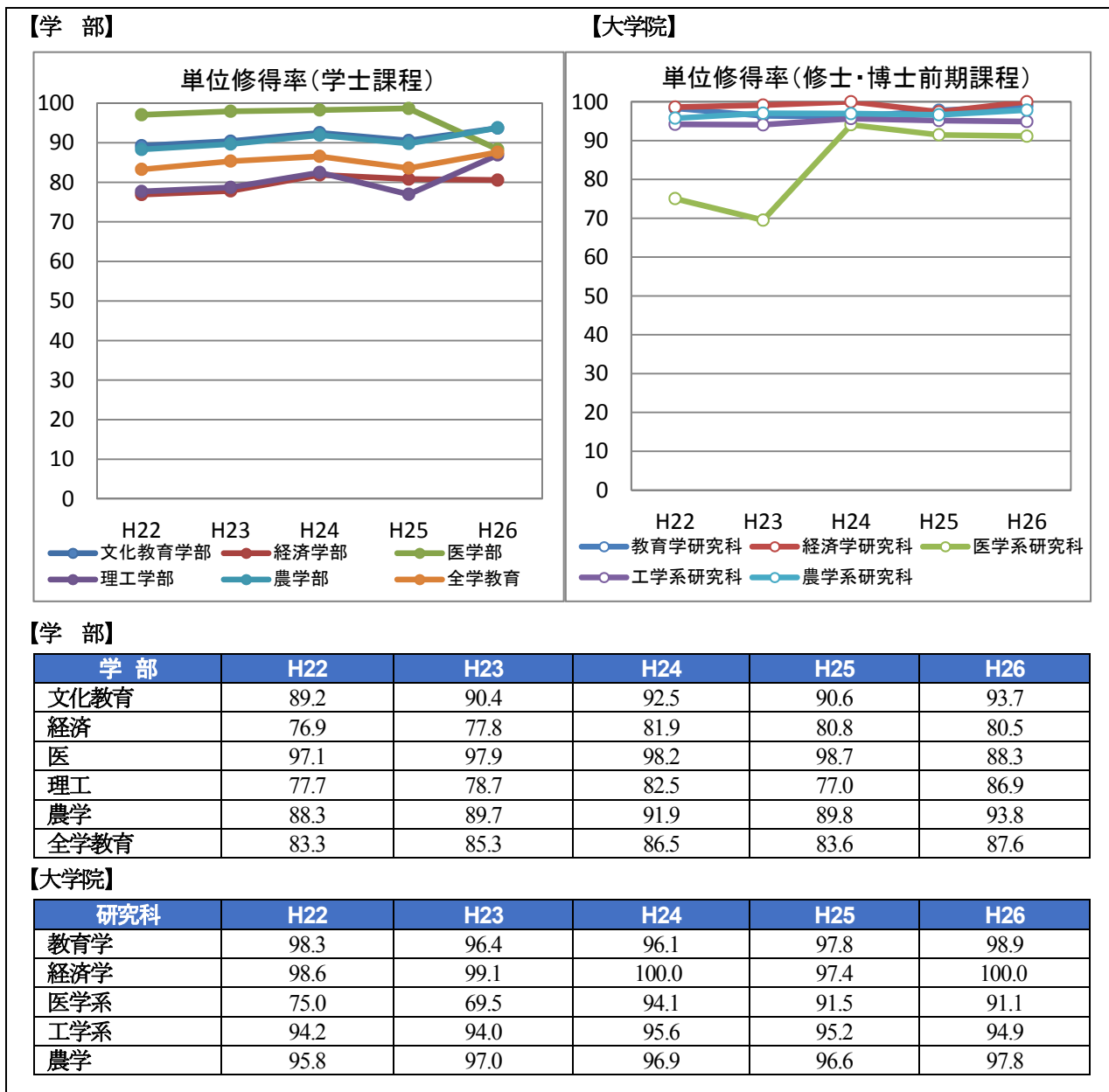
卒業（修了）の状況については（資料 6-1-①-C）、学士課程及び修士・博士前期課程の標準修業年限内卒業率は、学部（研究科）による差はあるものの、最近 5 年間の学士課程及び修士（博士前期）課程の標準修業年限×1.5 以内の卒業（修了）率は、90%程度になっている。博士・博士後期課程の標準修業年限内修了率は、工学系で平成 25 年度修了生までは 70%程度であった。一方、標準修業年限×1.5 以内の修了率は、医学系が 35.7~52.3%、工学系が 71.1~76.9%となっている。

なお、休学率は（資料 6-1-①-D）、学士課程では平成 22 年以降漸減傾向にあり、平成 26 年度には全学部が 2.2% 以下となった。大学院課程では、修士（博士前期）課程が 0% から 6% の範囲でほぼ一定の値を維持し、博士（博士後期）課程では平成 22 年度以降休学率は減少傾向にある。また、退学・除籍率は学士・大学院課程ともほぼ一定の低い範囲を推移している。

資格取得の状況は（資料 6-1-①-E）、医学部医学科において医師国家試験合格率が平成 22 年度は 88.5% であったが平成 25 年度に 100% を達成した。看護学科においては、看護師国家試験合格率が平成 22~25 年度まで 100% であり、平成 26 年度においても高い合格率を維持している。また、教員養成系課程の卒業者が教員免許を取得するとともに、教員養成系以外の学部・研究科においても、毎年一定数の学生が教員免許を取得している。さらに、工学系研究科の J A B E E 認定学科（コース）の卒業者に対して、修習技術者資格が毎年認定されている。

卒業（学位）論文等の内容・水準においては、観点5-3-④及び観点5-6-④で記述したように、各学部（研究科）の定めた評価基準により審査を実施してその内容・水準を担保している。また、主に大学院生による全国規模及び国際的な学会での発表、国際的学術誌での論文掲載など、学習・研鑽の成果や効果を示す実績が上がっている（資料 6-1-①-F）。特に、文化教育学部美術・工芸課程においては、例年学生による日彫展（全国公募展）における受賞・入選並びに一般公募展における多くの受賞など、著しい成果が上がっている（別添資料 6-1-①-1）。

資料 6-1-①-A： 各部局が開講する授業科目の単位修得状況（平成 22～26 年度）



(出典：IR室データ)

資料6-1-①-B: 卒業時における学士力の項目別達成度（平成23年度入学生）

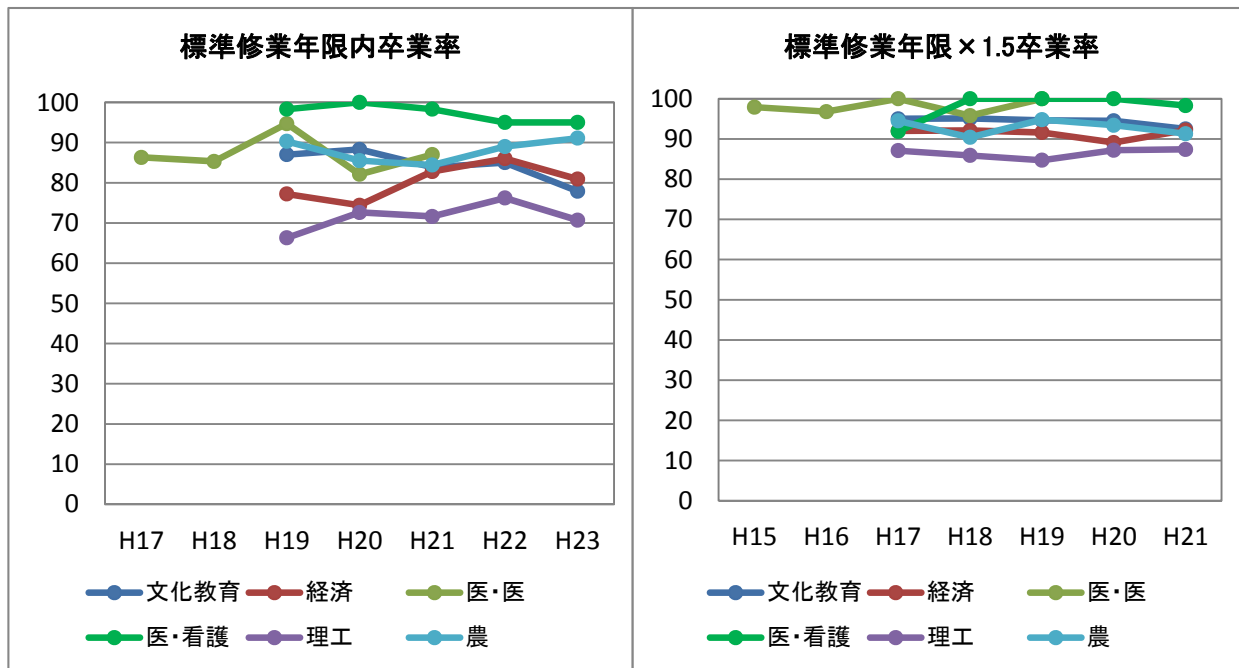
	学士力項目別平均GPA		
	1. 基礎的な知識と技能	2. 課題発見・解決能力	3 個人と社会の持続的発展を支える力
文化教育学部			
学校教育	2.64	2.73	2.61
教科教育	2.69	2.73	2.69
国際文化	2.73	2.88	2.80
人間環境	2.65	2.83	2.54
美術・工芸	2.78	2.83	2.76
経済学部			
国際経済社会	2.49	2.57	2.43
総合政策	2.52	2.66	2.47
企業経営	2.77	2.92	2.69
法務管理	2.67	2.63	2.49
医学部			
看護学科	2.62	2.65	2.77
理工学部			
数理科学	2.73	2.71	2.91
物理科学	2.57	3.00	2.66
知能情報	2.58	2.51	2.72
機能物質	2.31	2.92	2.63
機械システム	2.38	2.47	2.59
電気電子	2.18	2.29	2.31
都市	2.39	2.38	2.34
農学部			
応用生物科学	2.95	2.85	3.04
生物環境科学	2.80	2.82	2.94
生命機能科学	2.90	2.96	3.13

(出典：ラーニング・ポートフォリオ)

資料 6-1-①-C : 標準修業年限内および×1.5 以内の卒業・修了状況

【学 部】

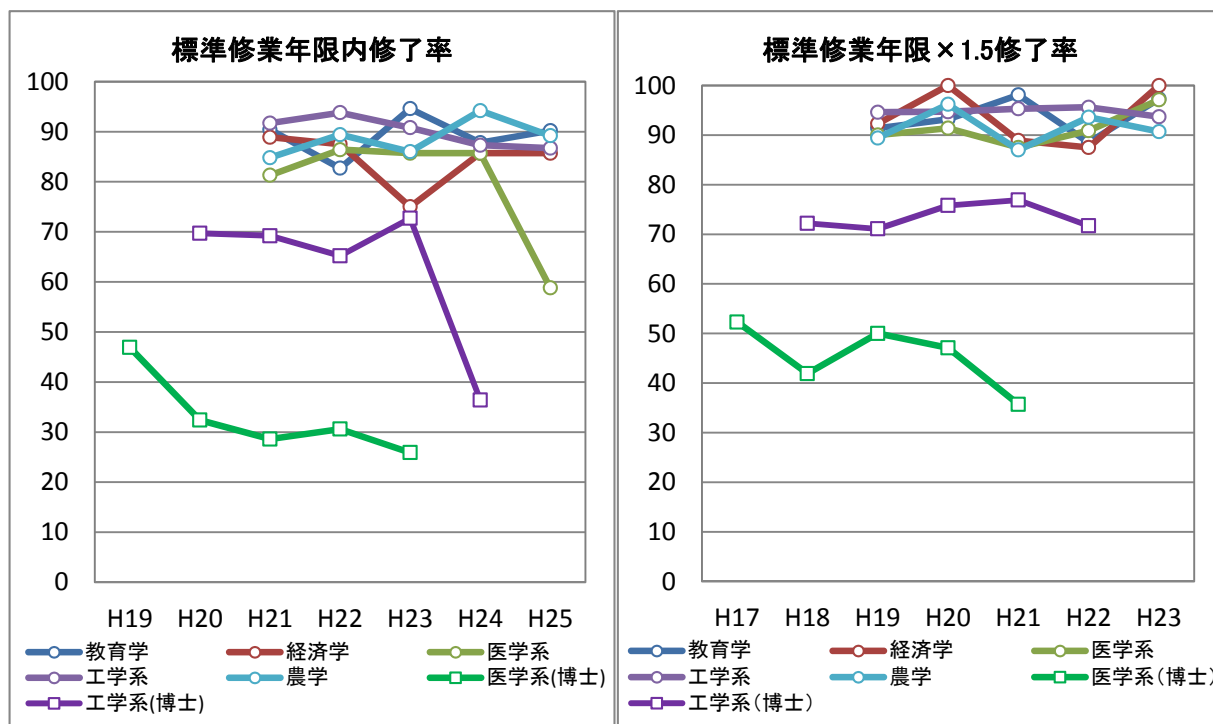
(縦軸は修了率, 横軸は入学年度)



学 部	標準修業年限内卒業率 (%)					標準修了年限×1.5 以内卒業率 (%)					
	入学年度	H19	H20	H21	H22	H23	H17	H18	H19	H20	H21
文化教育		87.0	88.3	83.9	85.0	77.9	95.0	95.1	94.6	94.5	92.5
経済		77.2	74.4	82.8	86.0	80.9	92.0	92.1	91.6	89.1	92.2
医・看護		98.3	100	98.3	95.0	95.0	91.9	100	100	100	98.3
理工		66.3	72.6	71.6	76.2	70.7	87.1	85.9	84.7	87.2	87.4
農		90.3	85.5	84.4	89.0	91.1	94.5	90.4	94.8	93.4	91.3
入学年度		H17	H18	H19	H20	H21	H15	H16	H17	H18	H19
医・医		86.3	85.3	94.7	82.1	87.0	97.9	96.8	100	95.8	100

【大学院】

(縦軸は修了率, 横軸は入学年度)



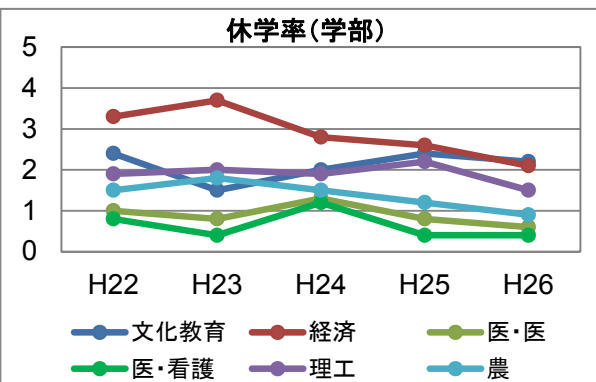
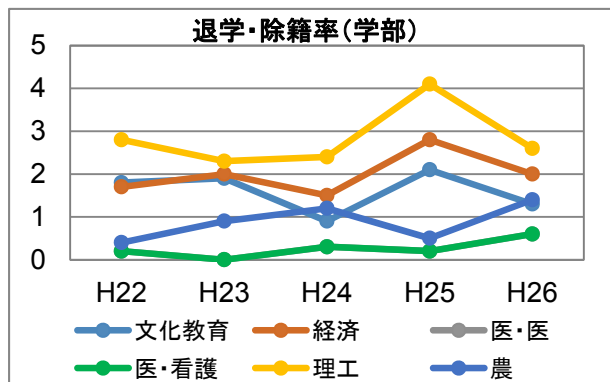
研究科		標準修業年限内卒業(修了)率 (%)					標準修了年限×1.5 以内卒業(修了)率 (%)				
入学年度		H21	H22	H23	H24	H25	H19	H20	H21	H22	H23
(修士)	教育学	90.4	82.7	94.6	87.8	90.2	91.4	93.2	98.1	88.5	97.3
	経済学	88.9	87.5	75.0	85.7	85.7	92.3	100	88.9	87.5	100
	医学系	81.3	86.4	85.7	85.7	58.8	90.0	91.4	87.5	90.9	97.1
	工学系	91.7	93.8	90.8	87.3	86.7	94.6	94.7	95.3	95.6	93.7
	農学	84.8	89.4	86.0	94.2	89.2	89.4	96.2	87.0	93.6	90.7
入学年度		H19	H20	H21	H22	H23	H17	H18	H19	H20	H21
医学系(博士)		46.9	32.4	28.6	30.6	25.9	52.3	41.9	50.0	47.1	35.7
入学年度		H20	H21	H22	H23	H24	H18	H19	H20	H21	H22
工学系(博士後期)		69.7	69.2	65.2	72.7	36.4	72.2	71.1	75.8	76.9	71.7

(注記) 標準修業年限内で修了した「平成23年度入学の医学系(博士)」及び「平成24年度入学の工学系(博士後期)」には、単位取得満期退学後に学位を取得した者は含まない。

(出典: IR室データ)

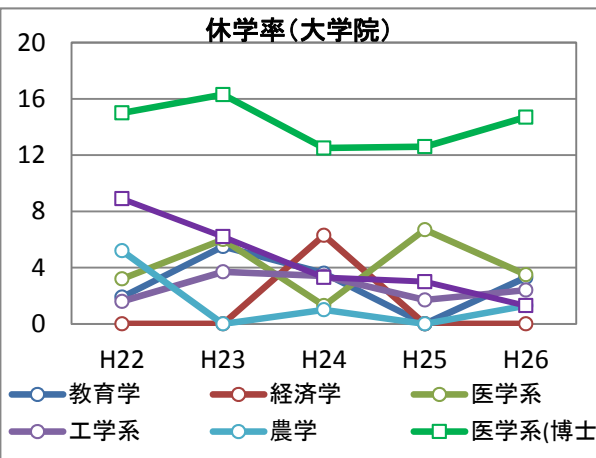
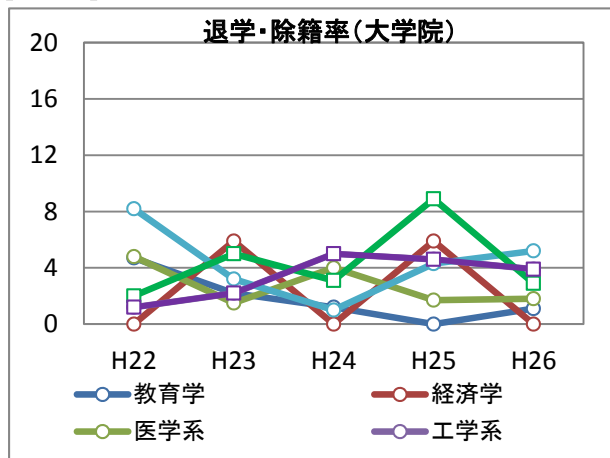
資料6-1-①-D: 退学・除籍, 休学状況 (平成22~26年度)

【学部】



学部	退学・除籍率 (%)					休学率 (%)				
	H22	H23	H24	H25	H26	H22	H23	H24	H25	H26
文化教育	1.8	1.9	0.9	2.1	1.3	2.4	1.5	2.0	2.4	2.2
経済	1.7	2.0	1.5	2.8	2.0	3.3	3.7	2.8	2.6	2.1
医・医	0.2	0.0	0.3	0.2	0.6	1.0	0.8	1.3	0.8	0.6
医・看護	0.2	0.0	0.3	0.2	0.6	0.8	0.4	1.2	0.4	0.4
理工	2.8	2.3	2.4	4.1	2.6	1.9	2.0	1.9	2.2	1.5
農	0.4	0.9	1.2	0.5	1.4	1.5	1.8	1.5	1.2	0.9

【大学院】



研究科	退学・除籍率 (%)					休学率 (%)					
	H22	H23	H24	H25	H26	H22	H23	H24	H25	H26	
(修士)	教育学	4.7	2.2	1.2	0.0	1.1	1.9	5.5	3.6	0.0	3.3
	経済学	0.0	5.9	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0
	医学系	4.8	1.5	4.0	1.7	1.8	3.2	6.0	1.3	6.7	3.5
	工学系	1.2	2.2	5.0	4.6	3.9	1.6	3.7	3.4	1.7	2.4
	農学	8.2	3.2	1.0	4.3	5.2	5.2	0.0	1.0	0.0	1.3
医学系(博士)	2.0	5.0	3.1	8.9	2.9	15.0	16.3	12.5	12.6	14.7	
工学系(博士後期)	1.2	2.2	5.0	4.6	3.9	8.9	6.2	3.3	3.0	1.3	

(出典: IR室データ (学校基本調査, 旧大学情報DB))

資料6-1-①-E： 各種資格取得者数及び検定合格者数（平成22～26年度）

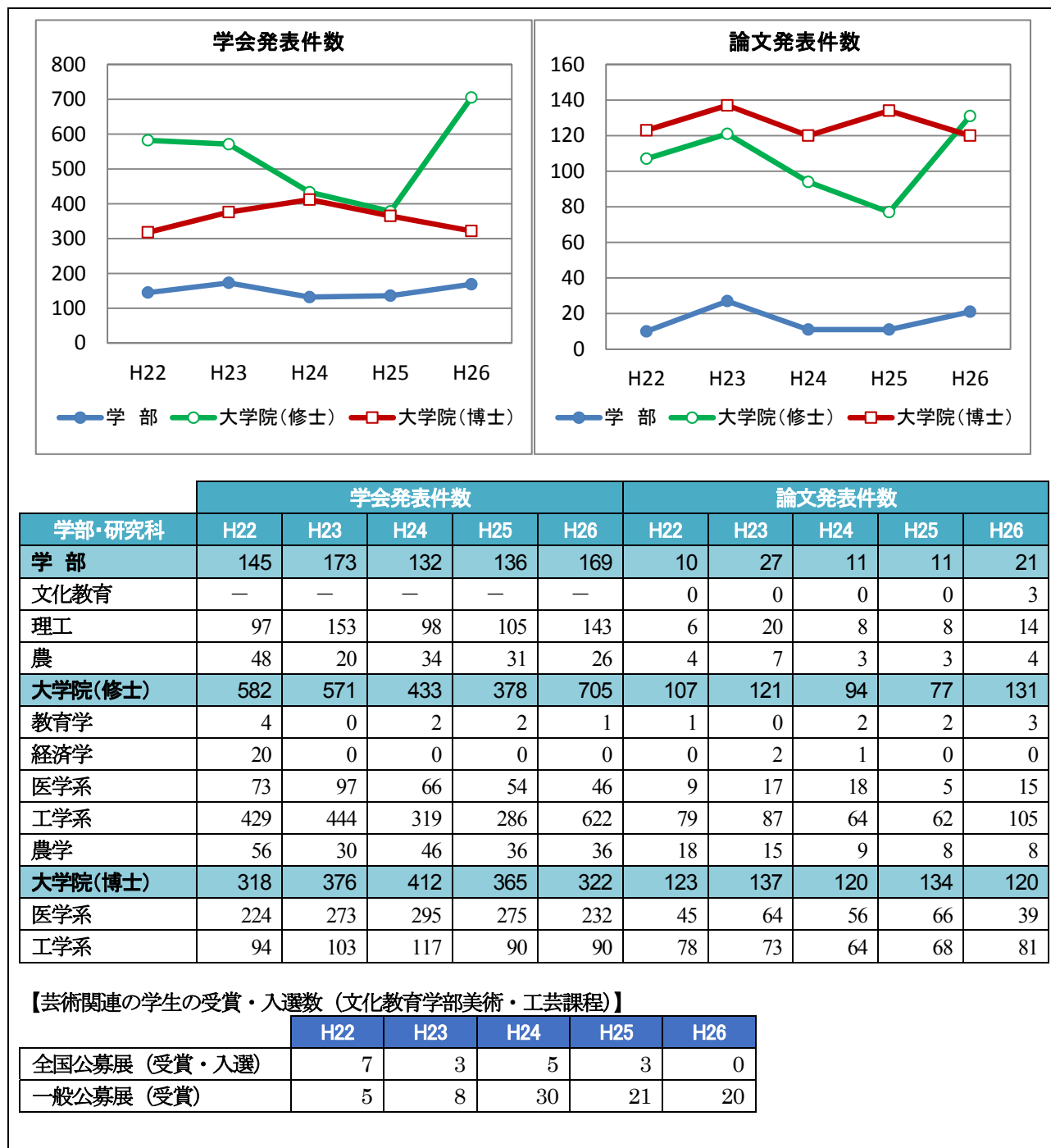
【国家試験資格；医学部】										
資格	合格者数					合格率				
	H22	H23	H24	H25	H26	H22	H23	H24	H25	H26
医師	85	84	94	85	95	88.5	90.3	94.0	100	93.1
看護師	60	60	60	57	56	100	100	100	100	96.6
保健師	66	67	67	59	65	97.1	95.7	98.5	98.3	100
助産婦	6	4	5	4	2	100	100	100	100	100

【教員免許取得者数】					
学部・研究科	H22	H23	H24	H25	H26
学部	227	239	196	204	191
文化教育	162	160	122	141	137
経済	10	8	5	7	7
理工	48	61	61	45	40
農	7	10	8	11	7
大学院	44	39	37	37	38
教育学	31	32	21	27	20
経済学	0	0	1	0	0
工学系	11	7	15	9	15
農学	2	0	0	1	3

【修習技術者取得者数】					
学部	H22	H23	H24	H25	H26
理工	180	217	287	318	252

(出典：教務課データ)

資料 6-1-①-F: 学生による学会発表 (国内、国際)、学術誌への論文掲載 (筆頭著者、その他)、受賞・入選歴 (平成 22~26 年度)



(出典: IR室および教務課データ)

別添資料 6-1-①-1: 文化教育学部学生の芸術関連受賞・入選歴 (平成 22~26 年度)

参照資料 6-1-①-ア: 各教育課程における学位授与の方針 (<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/kyouikuhausin.html>)

参照資料 6-1-①-イ: 学位授与の方針: (<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/kyouikuhausin.html>)

参照資料 6-1-①-ウ: 全学統一英語能力テスト (TOEIC-IP) 成績 (平成 25~26 年度)

(<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/toeic.html>)

【分析結果とその根拠理由】

卒業までに修得することが望まれる能力である佐賀大学学士力の達成を、平成 23 年度入学生からラーニング・ポートフォリオを活用して確認し、各項目とも平均 GPA が 2.2 から 3.1 の範囲で、十分な学習成果を上げている。さらに、英語能力については、TOEIC-IP テストにより客観的な学習成果の向上が確認されている。また、卒業、退学等の状況は、平成 22 年度以降あまり変化しておらず、一定の学習成果を維持できている。卒業（学位）論文は、各学部（大学院）の定めた評価基準に基づいて審査を実施してその内容・水準を担保するとともに、主に大学院学生による様々な研究成果の発表や芸術関連の受賞・入選など、社会的にもその内容・水準が認められている。資格取得に係わる学部（研究科）では、それぞれの専門分野相応の資格取得者数がある。これらの状況から、各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位修得、卒業（修了）、資格取得の状況及び卒業（学位）論文等の内容・水準から判断して、学習の成果が上がっている。

観点 6-1-②： 学習の達成度や満足度に関する学生からの意見聴取の結果等から判断して、学習成果が上がっているか。

【観点到係る状況】

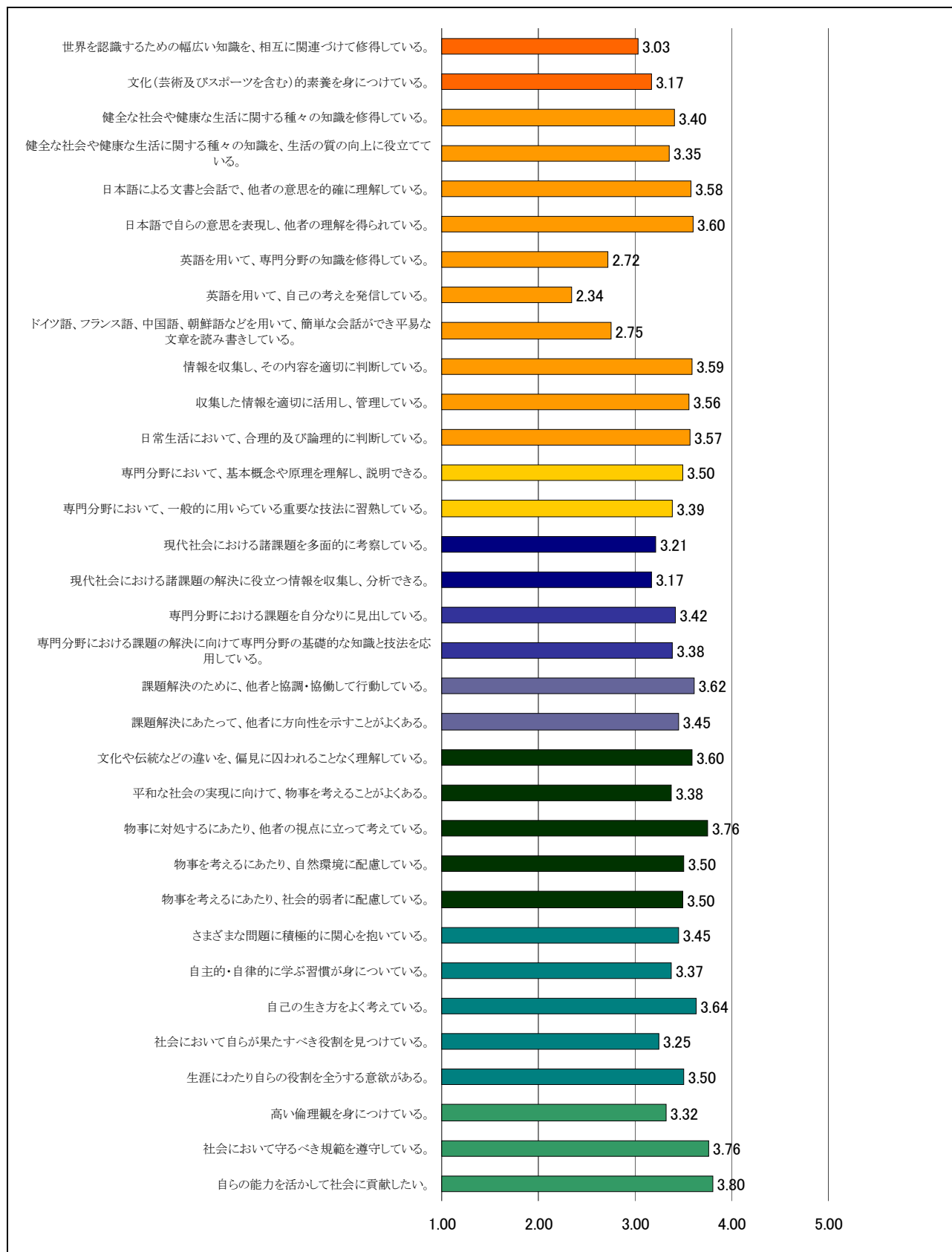
卒業（修了）予定者を対象として卒業・修了時に修得した知識・技能等を尋ねる学生対象調査を行い、学習の成果に関する検証・評価（資料 6-1-②-A、別添資料 6-1-②-1）並びに、平成 27 年 3 月卒業生に対して、学士力項目別達成度の自己評価アンケートを実施して、学習の到達度に関する学生の意識状況の検証（資料 6-1-②-B）を行っている。さらに、学生による授業評価を、大学院課程を含め、原則としてすべての授業科目について実施し、授業への満足度等を検証している（資料 6-1-②-C、別添資料 6-1-②-2）。

学習の到達度については、卒業（修了）予定学生対象調査（資料 6-1-②-A）では、ほぼ全ての調査項目において、5 段階評価で平均 3.0 以上の水準にあり、学士力達成度の自己評価アンケート（資料 6-1-②-B）でも、80% 程度の学生が「身についた」又は「かなり身についた」と回答している。ただし、いずれの調査においても語学力に関する項目については、学習の達成度についてやや低い評価となっている。これについては、観点 6-1-①で記載したように平成 25 年度より英語力の強化に取り組んでおり、その学習成果が上がりつつある（参照資料 6-1-②-A）。なお、授業評価アンケート（資料 6-1-②-C）においても、授業の内容の理解度や興味の増加について「そうは思わない」又は「全くそうは思わない」の否定的な回答率は、概ね学士課程で 10% 未満、大学院課程で 5% 未満であり、いずれの授業科目についても高い学習の達成度となっている。

本学での教育の満足度について学士力達成度の自己評価アンケートで調査した結果、概ね 8 割以上の学生が、「十分達成している」、「ある程度達成している」と回答している（資料 6-1-②-B）。

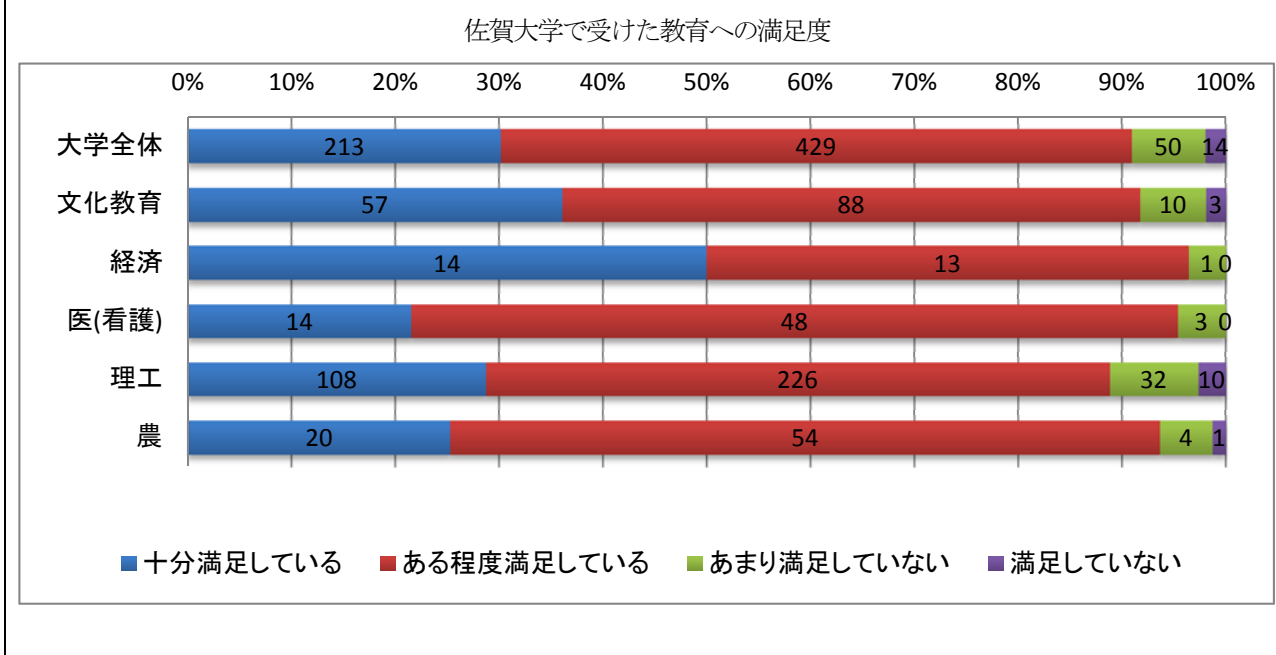
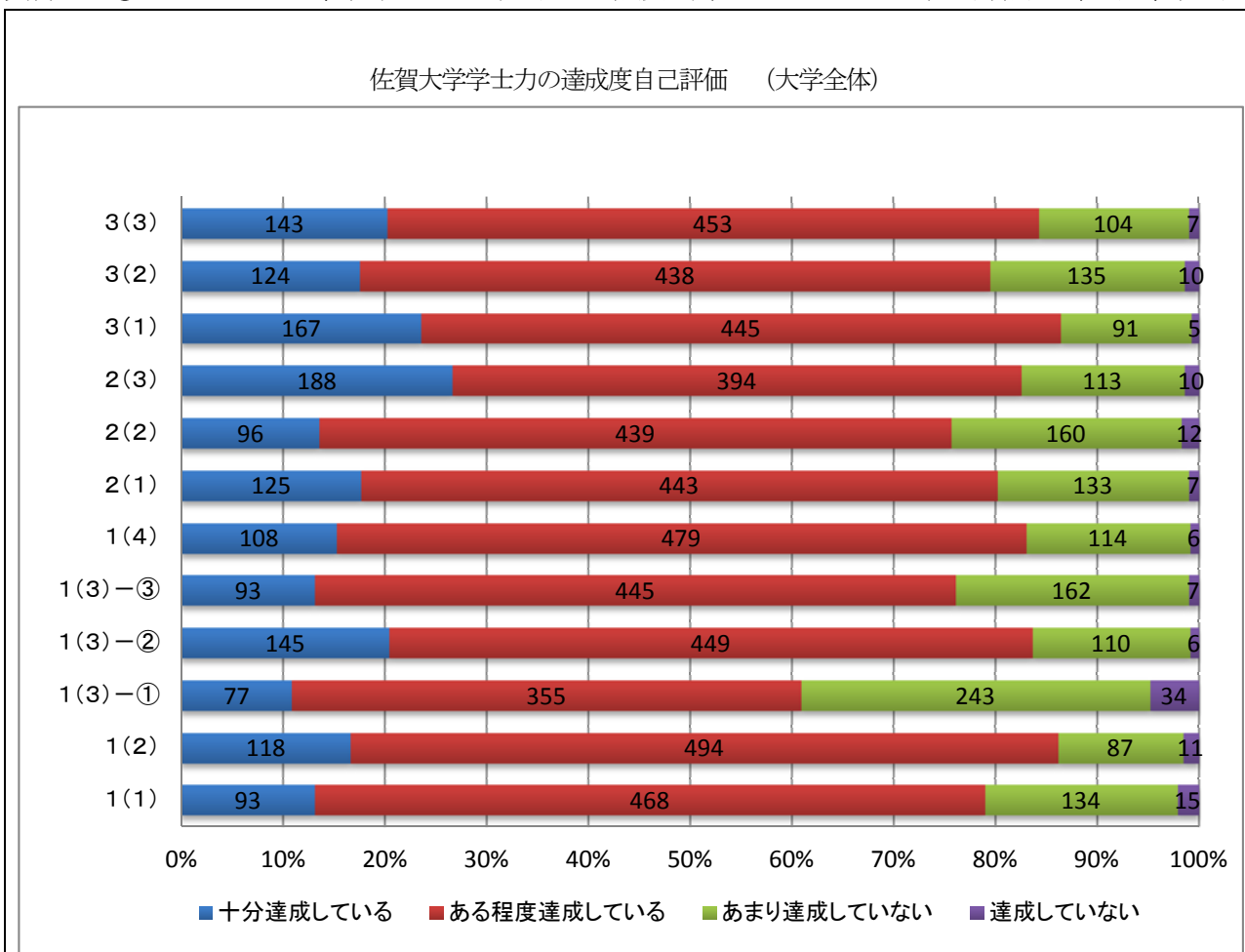
また、授業評価アンケートにおいても、授業に対する満足度について 5 段階評価の平均値を算出して経年変化を検証した結果、学士課程及び大学院課程とも若干上昇傾向にあり、平成 26 年度の満足度平均値が学士課程では 3.71~4.34、大学院課程では 4.09~4.91 の高い値となっている（資料 6-1-②-D）。

資料 6-1-②-A : 学士課程教育を通して習得した知識・技能等の自己評価 (平成 26 年度)



(出典：学生対象調査報告書 (平成 26 年度))

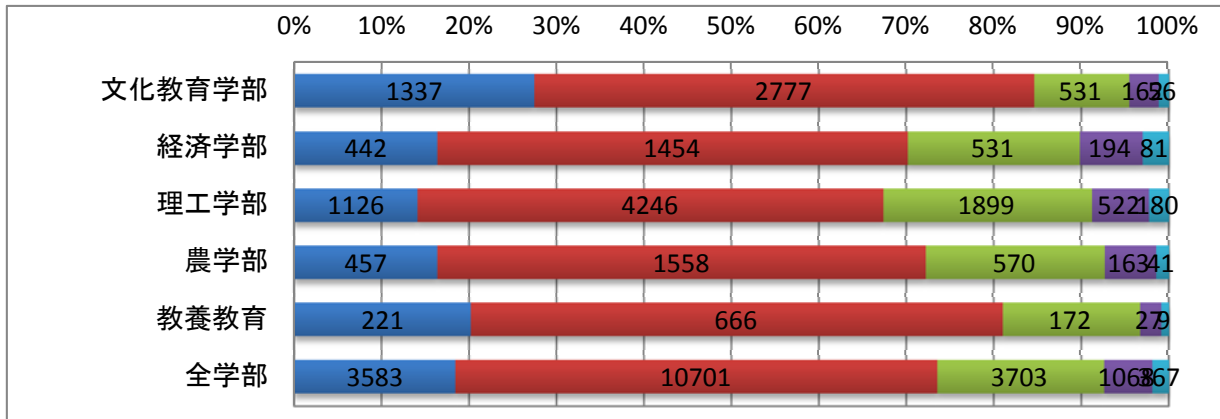
資料6-1-②-B: 卒業時における学士力の達成度に関するアンケート結果 (平成27年3月卒業生)



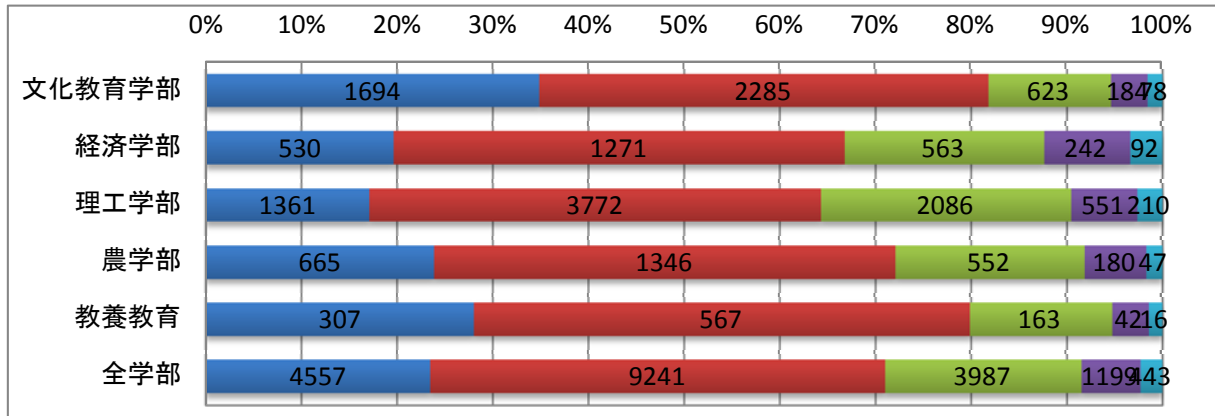
資料6-1-②-C： 授業評価アンケートによる学生の授業満足度（平成26年度）

【学 部】

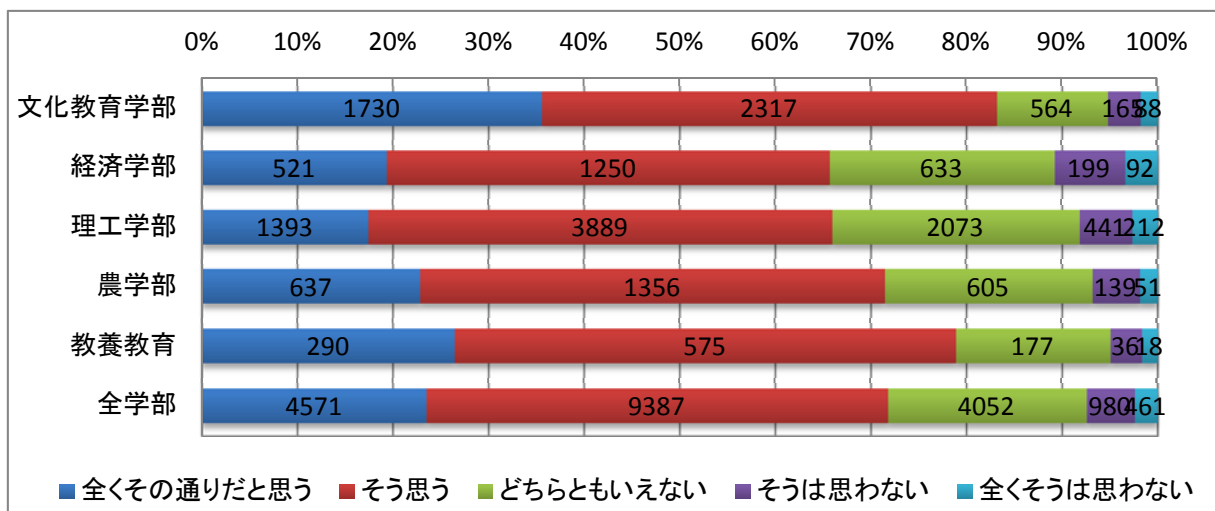
B-1 この授業の内容は理解できる



B-2 この科目を受講して内容への興味が増してきた

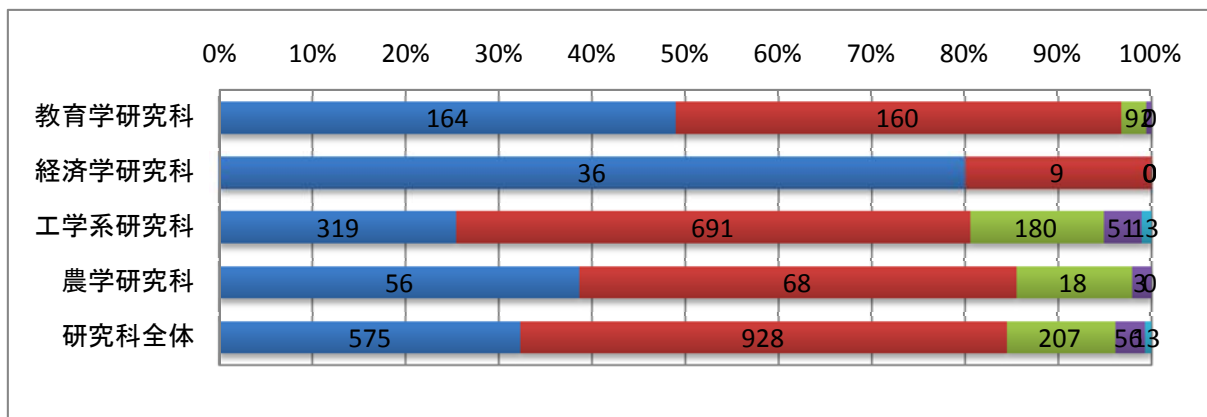


D-1 この授業を受講して満足が得られた

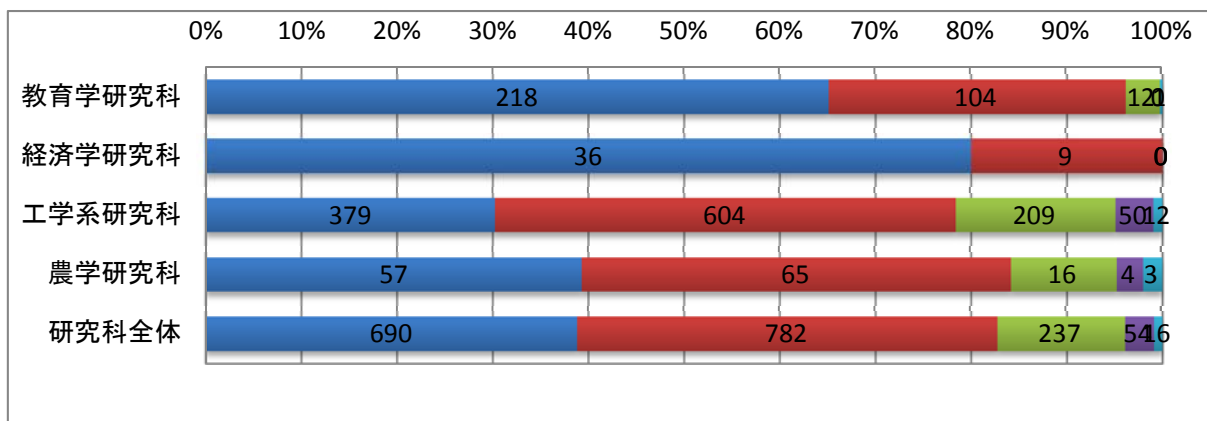


【大学院】

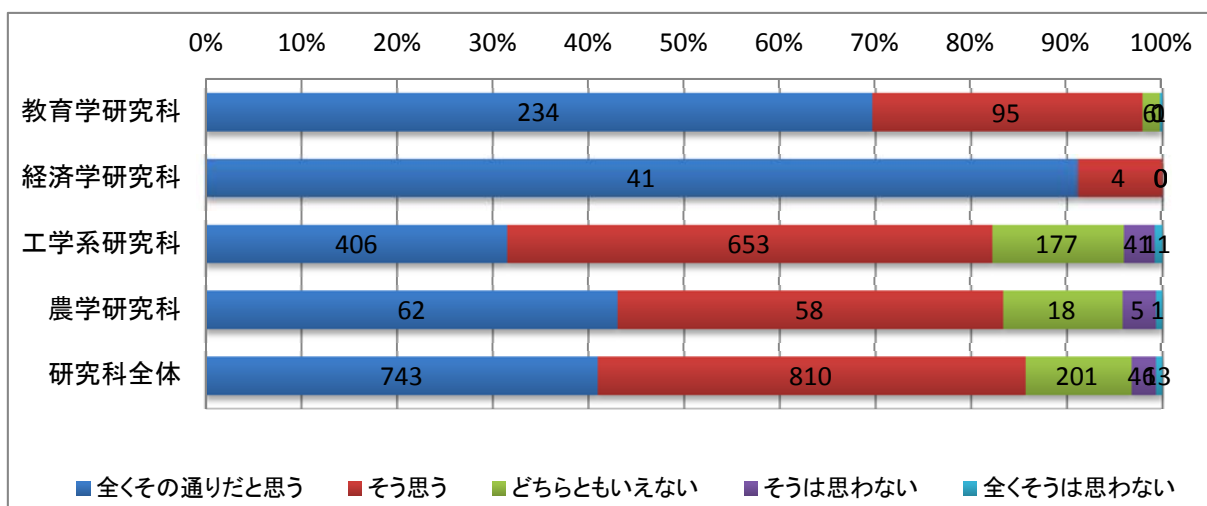
B-1 この授業の内容は理解できる



B-2 この科目を受講して内容への興味が増してきた

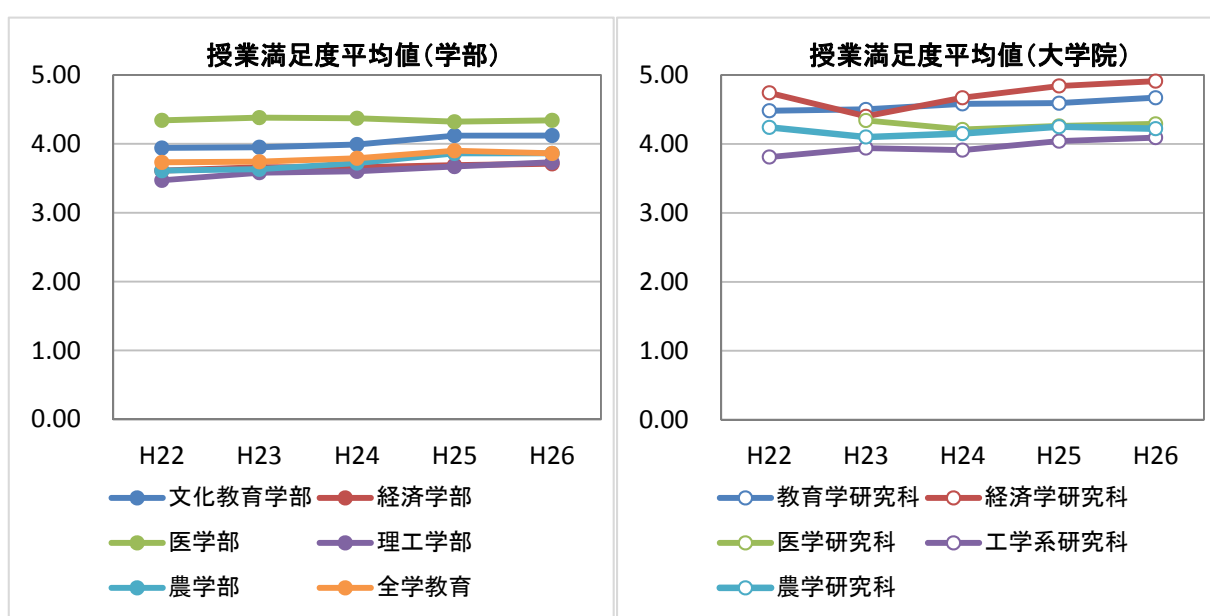


D-1 この授業を受講して満足が得られた



(出典：授業評価アンケート報告書(平成26年度))

資料 6-1-②-D： 授業評価アンケートによる学生の授業満足度平均値（平成 22～26 年度）



学部・研究科	授業満足度平均値				
	H22	H23	H24	H25	H26
学部					
文化教育	3.94	3.95	3.99	4.12	4.12
経済	3.61	3.66	3.66	3.69	3.71
医	4.34	4.38	4.37	4.32	4.34
理工	3.47	3.58	3.60	3.67	3.73
農	3.61	3.63	3.72	3.86	3.86
全学教育	3.73	3.74	3.79	3.90	3.86
大学院					
教育学	4.48	4.50	4.58	4.59	4.67
経済学	4.74	4.40	4.67	4.84	4.91
医学系	-	4.34	4.21	4.26	4.29
工学系	3.81	3.94	3.91	4.04	4.09
農学	4.24	4.10	4.15	4.25	4.22

(出典：授業評価アンケート報告書（平成 26 年度）)

別添資料 6-1-②-1:平成 26 年度「卒業（修了）予定学生対象調査報告書」

別添資料 6-1-②-2:佐賀大学授業評価・改善の実施に関する報告書 2012

参照資料 6-1-②-7: 全学統一英語能力テスト(TOEIC-IP)成績（平成 25～26 年度）

(<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/toeic.html>)

【分析結果とその根拠理由】

卒業（修了）予定学生対象調査、佐賀大学学士力の到達度アンケート、学生による授業評価など、さまざまな調査を実施しており、学生による授業評価は、概ね良好な水準にあり、卒業・修了予定者が習得した知識・

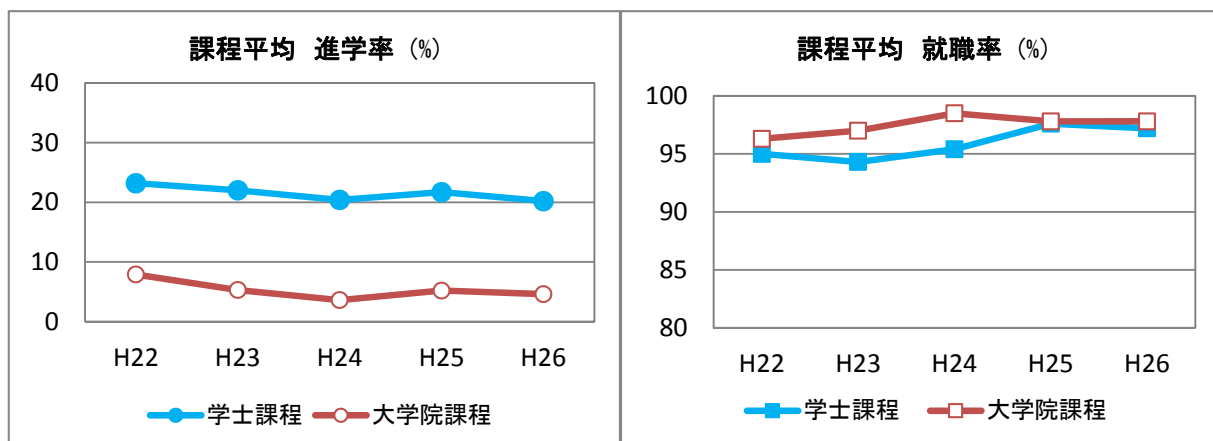
技能等に関する自己評価も高い傾向にある。佐賀大学学士力の達成度状況調査からも8割以上の学生が学修成果に満足している。これらのことから、授業評価等、学習の到達度や満足度に関する学生からの意見聴取の結果から判断して、学習の成果が上がっている。

観点6-2-①： 就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績から判断して、学習成果が上がっているか。

【観点到係る状況】

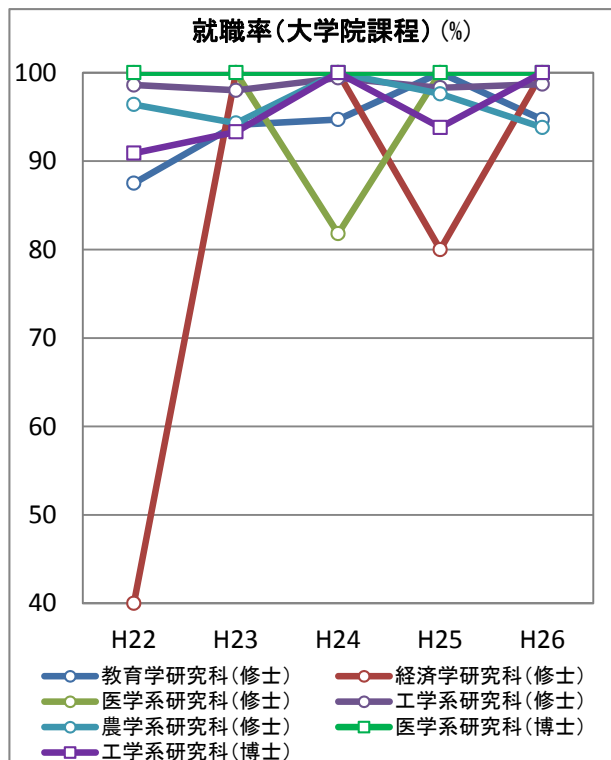
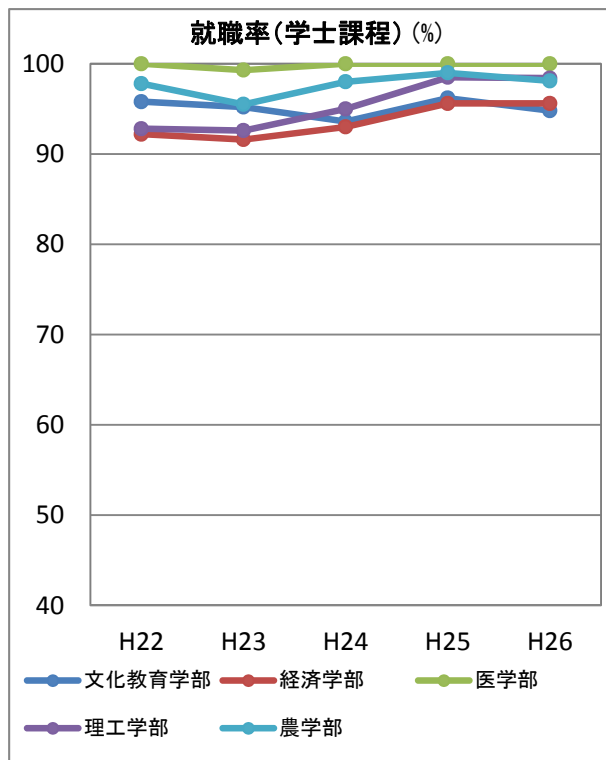
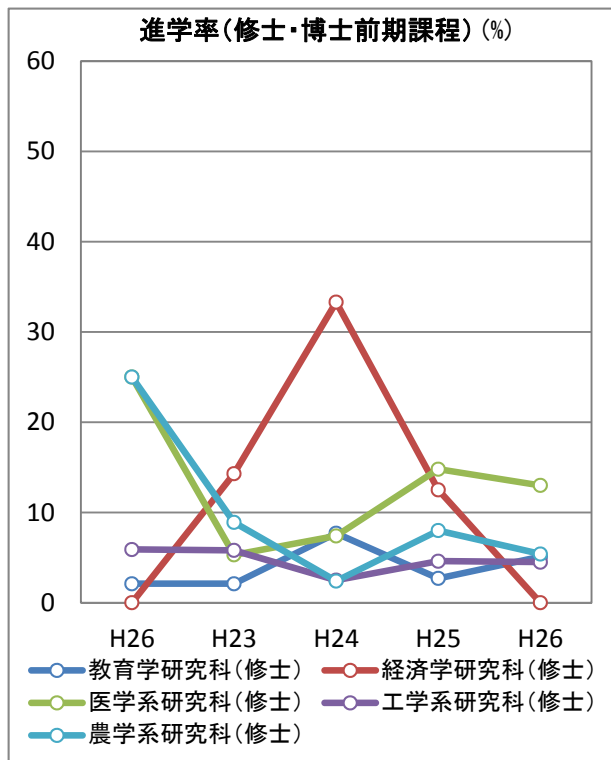
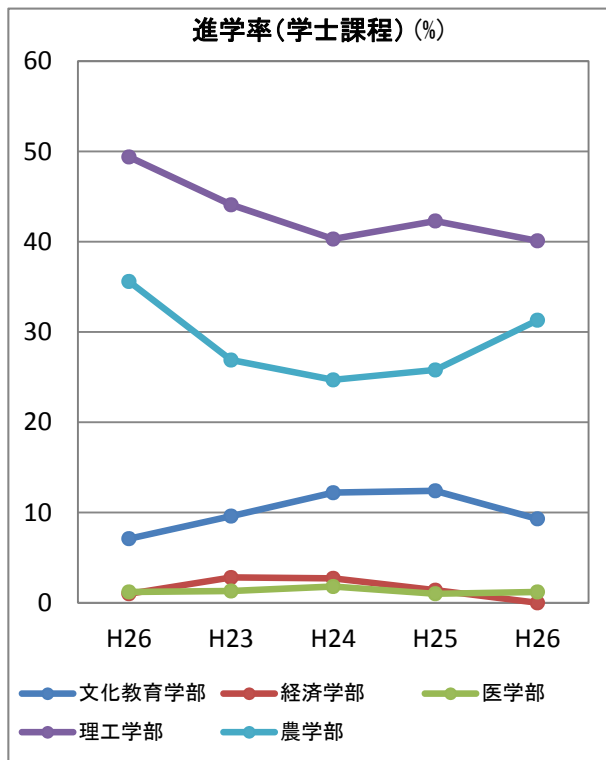
就職希望者の就職率は、学部・大学院とも平成22年度の95.0%及び96.3%から平成26年度の97.2%及び97.8%へと若干上昇傾向にあり、平成25年度以降97%以上の高い就職率を保っている（資料6-2-①-A）。平成27年3月卒業（修了）者の主な就職先は（資料6-2-①-B）、それぞれの学生が修得した専門分野を活かして、国家公務員・地方公務員、教育・学習支援、医療福祉、製造業、情報通信業等となっている（参照資料6-2-①-ア～イ）。医学部の場合、就職を希望する卒業生のほぼ100%が医療職に就いている。進学率は、就職率の上昇を反映して若干低下傾向にあるが、学部卒業者は全体平均で約20%（理工学部では約40%）、大学院修了者は約5%であり、本学の研究科又は他大学の研究科へ進学している（資料6-2-①-A）。これまでの卒業（修了）生については、学部や学科（課程）が典型的な卒業（修了）生として選抜して本学広報誌「かちがらす」にシリーズで掲載している「活躍する佐大OB」、「夢を掴んだ先輩たち」（参照資料6-2-①-ウ）、「卒業生からのMessage」（別添資料6-2-①-1）が示すように、社会の様々な分野で大いに活躍している。

資料 6-2-①-A : 佐賀大学卒業（修了）生の進学・就職状況（平成 22～26 年度）



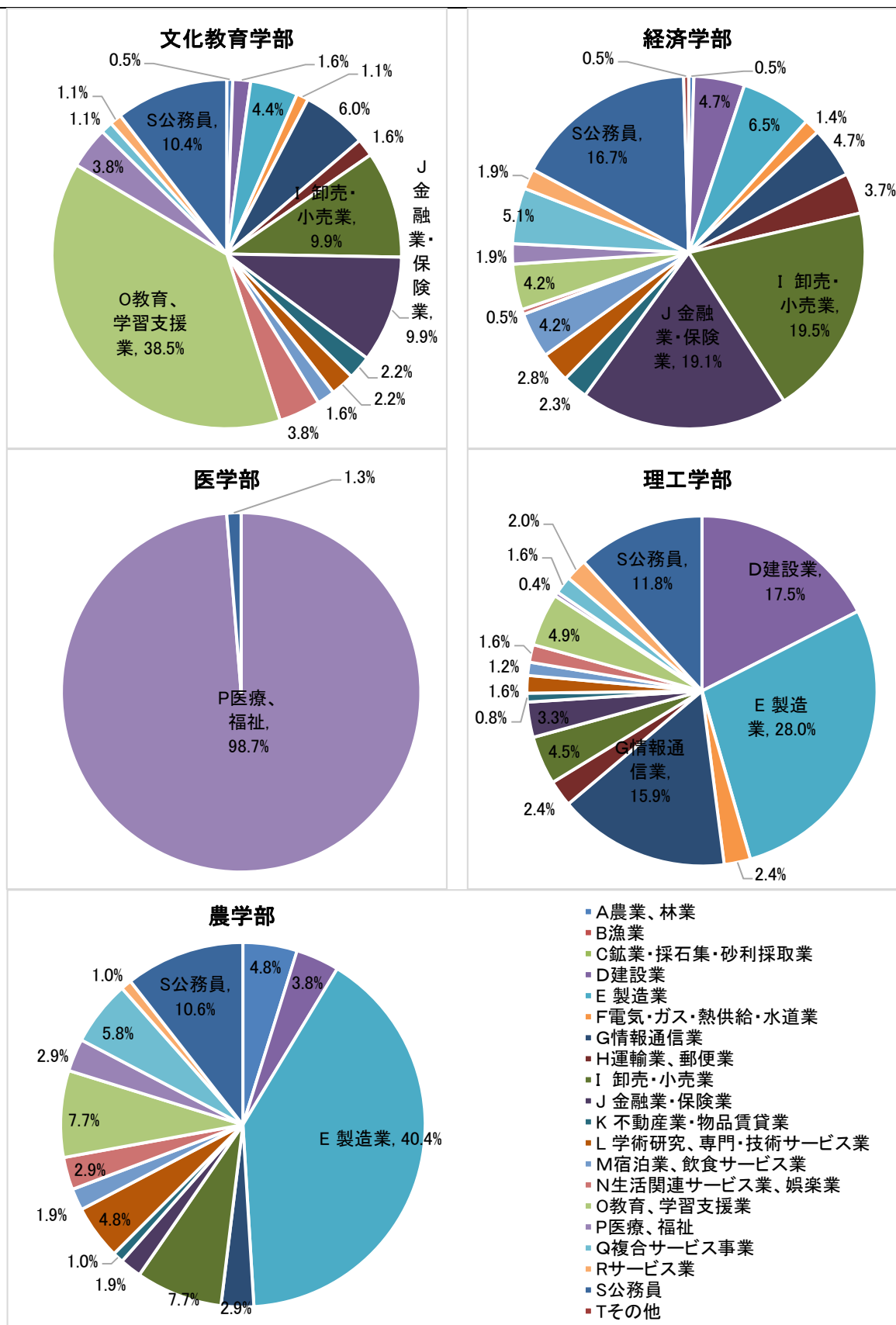
学部・研究科	進学率(進学者/卒業者)					就職率(就職者/就職希望者)					
	H26	H23	H24	H25	H26	H22	H23	H24	H25	H26	
学士課程平均	23.2	22.0	20.4	21.7	20.2	95.0	94.3	95.4	97.6	97.2	
文化教育	7.1	9.6	12.2	12.4	9.3	95.8	95.2	93.6	96.2	94.8	
経済	1.0	2.8	2.7	1.4	0.0	92.2	91.6	93.0	95.6	95.6	
医	1.2	1.3	1.8	1.0	1.2	100	99.3	100	100	100	
理工	49.4	44.1	40.3	42.3	40.1	92.8	92.6	95.0	98.5	98.4	
農	35.6	26.9	24.7	25.8	31.3	97.8	95.5	98.0	99.0	98.1	
大学院課程平均	7.9	5.3	3.6	5.2	4.6	96.3	97.0	98.5	97.8	97.8	
修士課程	教育学	2.1	2.1	7.7	2.7	5.1	87.5	94.1	94.7	100.0	94.7
	経済学	0.0	14.3	33.3	12.5	0.0	40.0	100	100	80.0	100.0
	医学系	25.0	5.3	7.4	14.8	13.0	100	100	81.8	100.0	-
	工学系	5.9	5.8	2.5	4.6	4.5	98.6	98.0	99.4	98.3	98.7
	農学	25.0	8.9	2.4	8.0	5.4	96.4	94.3	100	97.6	93.8
医学系 (博士)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100	100	100	100	100	
工学系 (博士後期)	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	90.9	93.3	100	93.8	100	

*H26 の (-) は、就職該当者なし



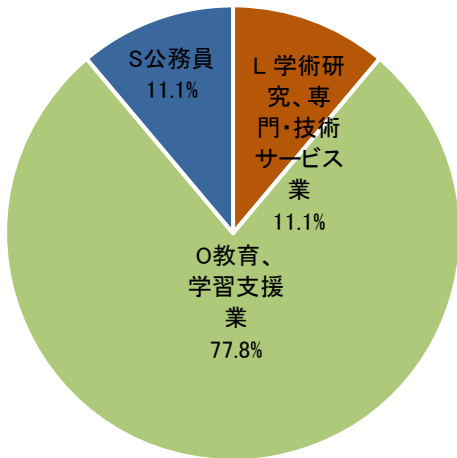
(出典：就職システム「統計・帳票」)

資料 6-2-①-B： 学部（研究科）卒業（修了）生の産業別就職状況（平成 27 年 3 月卒業（修了））

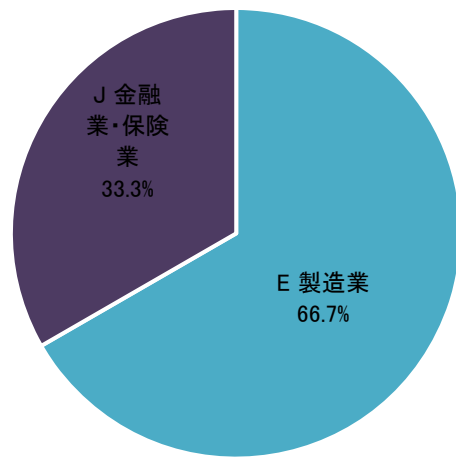


(出典：キャリアセンター就職データ)

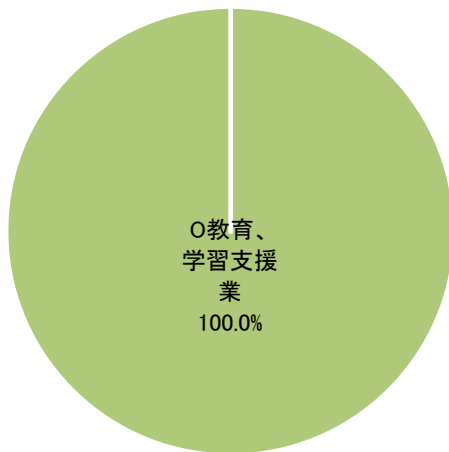
教育学研究科



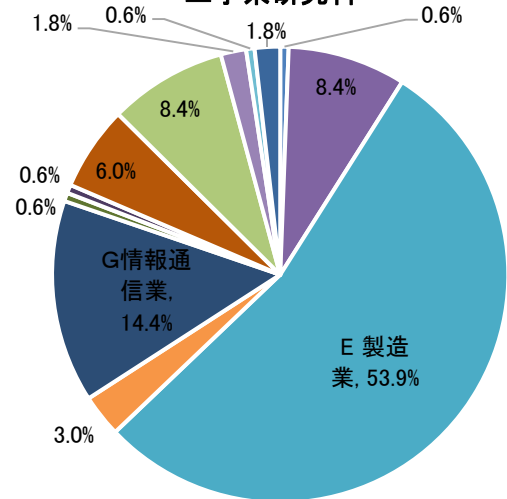
経済学研究科



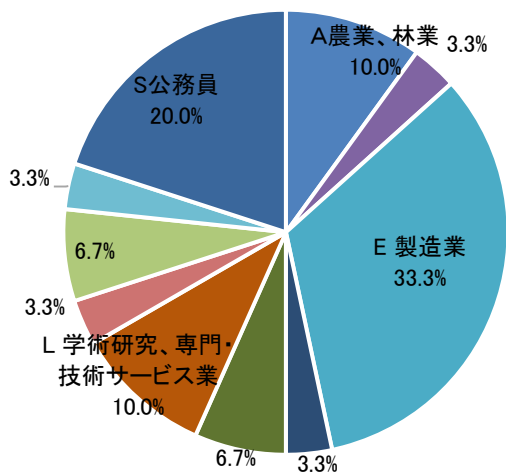
医学系研究科



工学系研究科



農学研究科



- A 農業、林業
- B 漁業
- C 鉱業・採石集・砂利採取業
- D 建設業
- E 製造業
- F 電気・ガス・熱供給・水道業
- G 情報通信業
- H 運輸業、郵便業
- I 卸売・小売業
- J 金融業・保険業
- K 不動産業・物品賃貸業
- L 学術研究、専門・技術サービス業
- M 宿泊業、飲食サービス業
- N 生活関連サービス業、娯楽業
- O 教育、学習支援業
- P 医療、福祉
- Q 複合サービス事業
- R サービス業
- S 公務員
- T その他

(出典：キャリアセンター就職データ)

別添資料 6-2-①-1：佐賀大学卒業（修了）生の社会での活躍等（広報誌「かちがらす」23号，佐賀大学 GUIDE BOOK 2014）

参照資料 6-2-①-ア：佐賀大学キャリアセンター ウェブページ 就職データ集 (<http://job.admin.saga-u.ac.jp/job/>)

参照資料 6-2-①-イ：大学ポートレート 佐賀大学 (<http://top.univ-info.niad.ac.jp/univ/outline/0524/>)

参照資料 6-2-①-ウ：広報誌「かちがらす」 ウェブページ (<http://www.saga-u.ac.jp/koho/>)

【分析結果とその根拠理由】

就職希望者の就職率は、学部・大学院とも平成 22 年度の 95.0%及び 96.3%から平成 26 年度の 97.2%及び 97.8%へと若干上昇傾向にあり、平成 25 年度以降 97%以上の高い就職率を保っている。また、就職・進学先は学部・研究科の教育目的に掲げる専門領域の特性に応じたものとなっている。就職や進学といった進路の状況等から判断して、学習の成果が上がっている。

観点 6-2-②：卒業（修了）生や、就職先等の関係者からの意見聴取の結果から判断して、学習成果が上がっているか。

【観点に係る状況】

最近 5 年間の卒業（修了）生を対象とした既卒者アンケート、同窓会の会員を対象とした幅広い年代の既卒者に対するアンケート、就職先関係者アンケートを教育委員会が中心となって実施するとともに、各部局が必要に応じて卒業生アンケートや就職先アンケートを実施するなど、関係者から意見を聴取し、学習の成果を検証・評価している（観点 8-1-③に後述）。

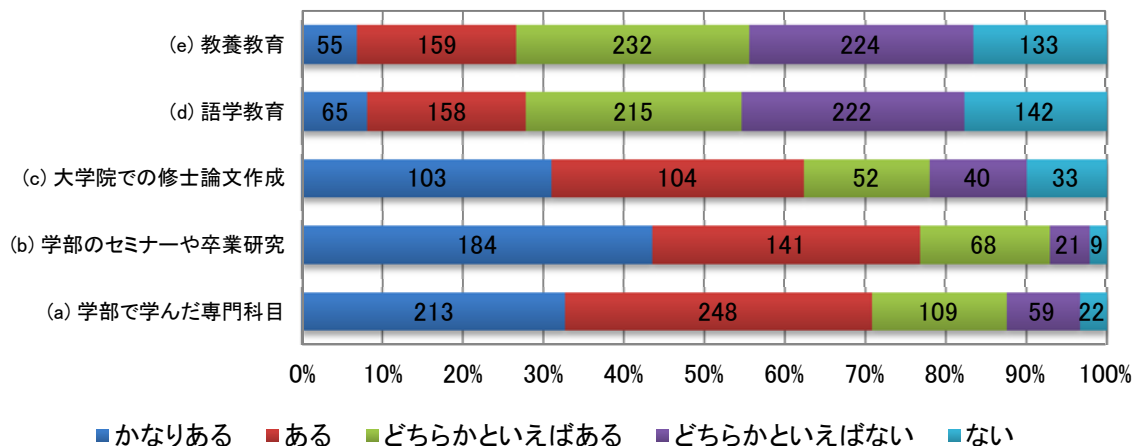
最近 5 年間の卒業（修了）生を対象として、大学（大学院）で受けた教育の社会における有用性や身につけた能力について実施したアンケート調査の結果（資料 6-2-②-A）、卒業生の約 90%、修了生の約 78%が専門教育や卒業（修士・博士）研究の有用性を認めており、教養教育についても 55%程度がその有用性を認めている。大学（大学院）における教育で身についたと思う能力では、85～90%の卒業（修了）生が課題適応力、論理的思考力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力が挙げられている（資料 6-2-②-A）。また、同窓会会員を対象としたアンケートによれば、全般的に専門教育の社会的な有用性を認めており、教養教育についても 70%弱程度が社会的に有用とみなしている（資料 6-2-②-B）。

就職先関係者に対して、主に平成 21～25 年度に採用した佐賀大学卒業生・修了生の能力等についてアンケート調査した結果（資料 6-2-②-C、別添資料 6-2-②-12）、社会人基礎力に相当する 9 項目の内、「(7)国際コミュニケーション能力・異文化理解能力がある」を除いて平均値 3.14～3.56 であり、「(10)期待通りの活躍をしている」かについても平均値 3.49 と、おおむね良好な評価が得られている。なお、平均値 2.59 と評価が比較的低かった国際コミュニケーション能力等については、観点 6-1-①に記載したように、全学的な英語教育の強化を平成 25 年度から実施して対応しており、成果を上げつつある（参照資料 6-2-②-ア）。また、医学部における卒業生の就職先医療機関へのアンケートによれば、医療従事者として必要な能力・資質についていずれの項目も 5 段階評価の 3.5～4.1 の比較的高い評価を受けている（別添資料 8-1-③-7【後掲】）。また、観点 6-2-①で述べた本学広報誌「かちがらす」にシリーズで掲載している「活躍する佐大OB」、「夢を掴んだ先輩たち」（参照資料 6-2-②-イ）、「卒業生からの Message」（別添資料 6-2-①-1【再掲】）などにおいても、社会の様々な分野で在学時の学習・研究の成果が卒業・修了生によって活用されていることが確認できる。

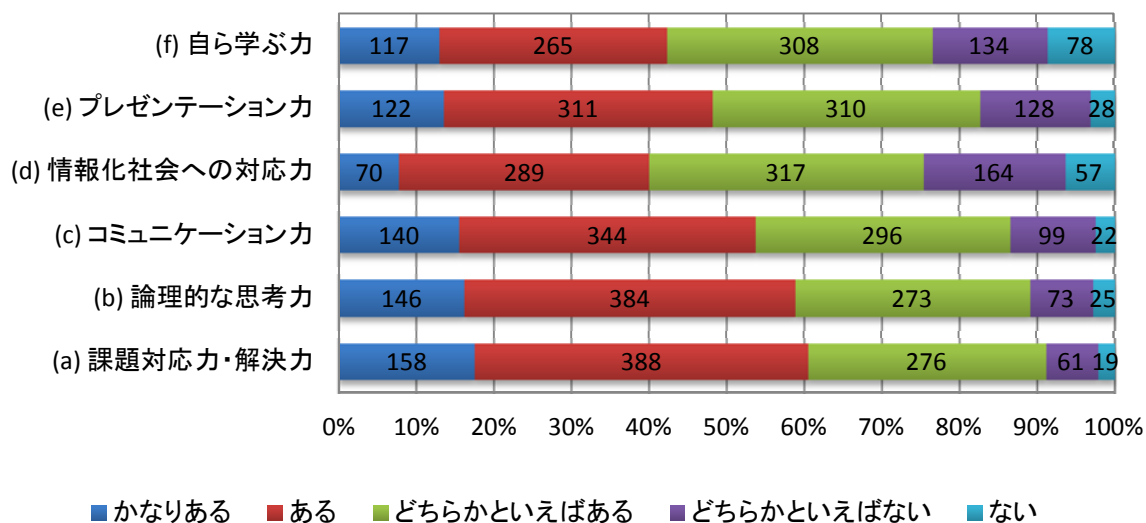
資料6-2-②-A： 最近5年間の卒業（修了）生対象アンケート結果（抜粋）

有効回答数 学部卒423名，大学院卒160名

社会人として仕事を遂行する上で、以下の教育が有用だったと感じることがあるか



社会人として仕事を遂行する上で、大学(大学院)で受けた教育によって以下の能力が身についていたと感じることがあるか



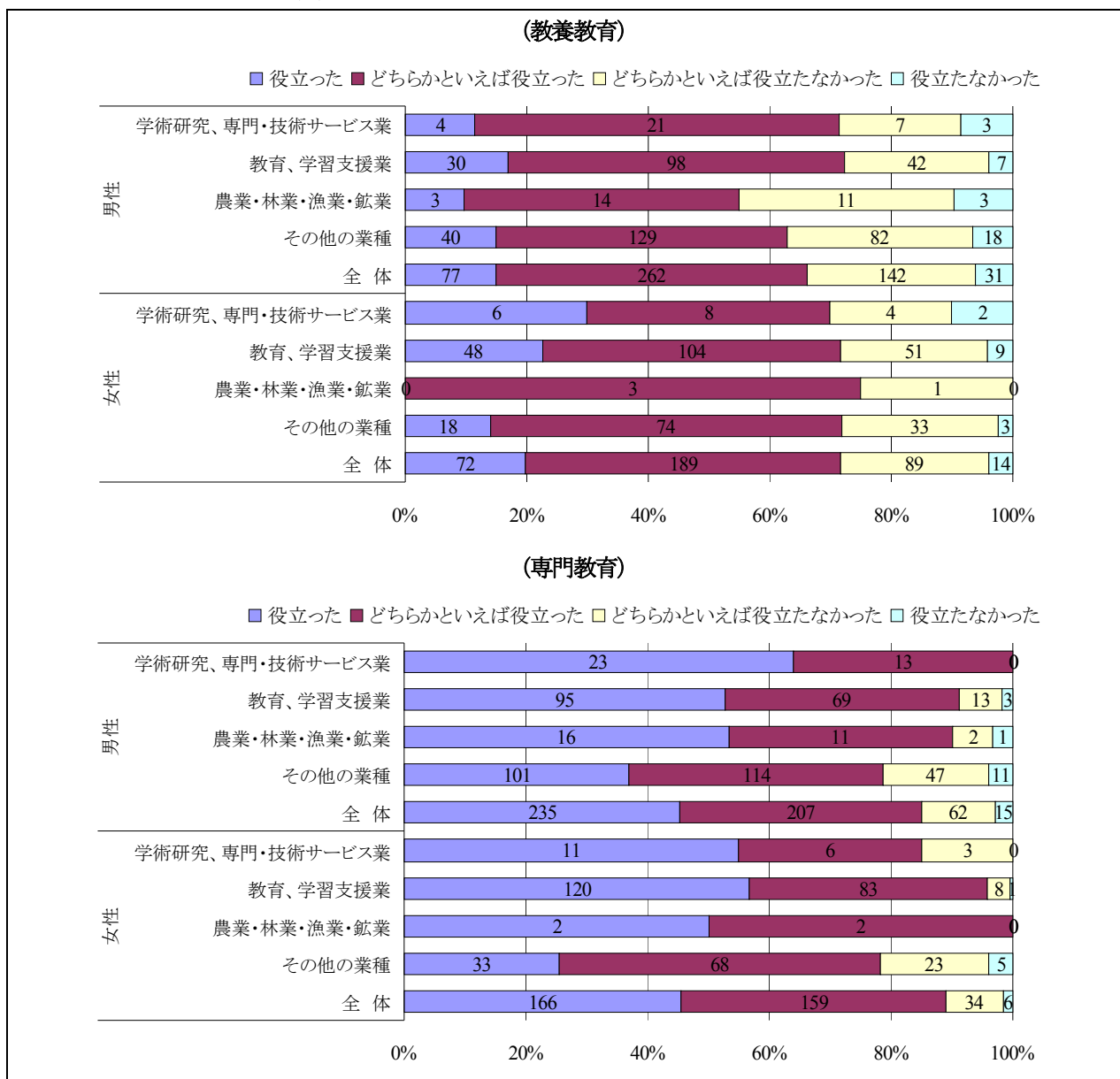
社会人として仕事を遂行する上で、以下の教育が有用だったと感じることがあるか	かなりある	ある	どちらかといえばある	どちらかといえばない	ない
(a) 学部で学んだ専門科目	213	248	109	59	22
(b) 学部のセミナーや卒業研究	184	141	68	21	9
(c) 大学院での修士論文作成	103	104	52	40	33
(d) 語学教育	65	158	215	222	142
(e) 教養教育	55	159	232	224	133

有効回答数 学部卒 423 名, 大学院卒 160 名

社会人として仕事を遂行する上で、大学(大学院)で受けた教育によって以下の能力が身についていたと感じることがあるか	かなりある	ある	どちらかといえばある	どちらかといえばない	ない
(a) 課題対応力・解決力	158	388	276	61	19
(b) 論理的な思考力	146	384	273	73	25
(c) コミュニケーション力	140	344	296	99	22
(d) 情報化社会への対応力	70	289	317	164	57
(e) プレゼンテーション力	122	311	310	128	28
(f) 自ら学ぶ力	74	225	182	36	12

(出典：平成 27 年度 教育委員会資料)

資料 6-2-②-B： 佐賀大学卒業生による修得した知識・技能の社会的な有用性評価



(出典：佐賀大学における教育と知識・技能の活用に関する調査データ)

資料 6-2-②-C: 卒業(修了)生就職先に対するアンケート結果抜粋 (平成 27 年 4 月実施)

有効回答数 114, 5 件法	
回答項目	平均値
1. 幅広い教養・知識を身につけている	3.20
2. 専門分野の知識を身につけている	3.31
3. 知識や情報を集めて自分の考えを導き出す能力がある	3.44
4. 専門分野の基礎的な知識と技法を応用することができる	3.25
5. 他者と協調・協働して課題に取り組む能力がある	3.56
6. 積極的でリーダーシップがとれる	3.14
7. 国際コミュニケーション能力、異文化理解能力がある	2.59
8. 持続的に学習を続け、主体的に仕事に取り組む意欲がある	3.61
9. 仕事に対する高い倫理観と社会的責任感を身につけている	3.54
10. 期待通りの活躍をしている	3.49

(出典: 「平成 27 年度 卒業(終了)生就職先企業アンケート結果報告」)

別添資料 6-2-②-1: 卒業生・修了生に関するアンケート結果報告書 (企業に対するアンケート調査)

別添資料 6-2-②-2: 卒業生の学習成果に関する意見 (佐賀大学 GUIDE BOOK 2014)

参照資料 6-2-②-ア: 全学統一英語能力テスト (TOEIC-IP) 成績 (平成 25~26 年度)

<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/toEIC.html>参照資料 6-2-②-イ: 広報誌「かちがらす」 ウェブページ (<http://www.saga-u.ac.jp/koho/>)

【分析結果とその根拠理由】

卒業 (修了) 生の意見、同窓生に対するアンケート調査の結果、卒業 (修了) 生の就職先企業へのアンケート調査の結果などから、大学における学習を通して身に付けた知識、能力等が、社会での活躍に結びついており、企業や医療機関等の就職先から期待される水準を達成している。これら卒業 (修了) 生や、就職先等の関係者からの意見聴取の結果から判断して、学習の成果が上がっている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- 「ポートフォリオ学習支援統合システム」により、佐賀大学学士力に対応した学習の成果について検証するとともに、様々な方法で学修成果の達成状況を調査し、ステークホルダーから良好な評価が得られている。
- 文化教育学部・美術工芸課程の学生が全国的美術展等において例年数多くの受賞・入選を果たしており、本学の特色を示す学習・研鑽の成果が上がっている。

【改善を要する点】

- 卒業・修了生の学習成果をいっそう多面的に把握していくために、卒業・修了後 3 年間の動向の把握や離職率等の分析を充実させていくことが課題である。

